

鈴鹿工業高等専門学校		開講年度	令和02年度(2020年度)	授業科目	国語 I B
科目基礎情報					
科目番号	0011	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	機械工学科	対象学年	1		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	教科書「精選国語総合」(東京書籍), 「精選国語総合準拠学習課題ノート」(東京書籍), 本校指定の電子辞書。				
担当教員	熊澤 美弓				
到達目標					
古典学習を通じて、当代の人間の考え方や生き方を知ることから始まり、加えて現代に生きる日本人として必要な「古典文学」の基礎知識の獲得と読解力の向上を果たすことができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、特有のリズムや韻などを味わい理解することができる。	古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、特有のリズムや韻などを味わうことができる。	古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱しても、特有のリズムや韻などを味わうことができない。		
評価項目2	代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人物・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。	代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人物・社会・自然などについて考えることができる。	代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解したり、人物・社会・自然などについて考えることができない。		
評価項目3	教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できる。	教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を理解できる。	教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を理解・習得することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	本科目は、高等専門学校の国語の基礎能力を「古文・漢文」の分野を中心に身につけさせる。まず、「古典」学習の意義(1)当時の人々の考え方、生き方を知る。(2)古典を通じて現代の自分たちの生活、考え方、生き方を捉えなおす。)を再確認する。具体的には、中学校までの古典学習の総復習を含めながら、高専生としてそして現代に生きる日本人として、必要な古典文学の基礎知識の獲得と、読解力の向上をねらいとする。				
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> すべての内容は学習・教育目標(A)の<視野><意欲>、及び(C)の<発表>に対応する。 授業は講義・演習形式で行う。講義中は集中して聴講する。 「授業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする。 				
注意点	<p><到達目標の評価方法と基準> 下記授業計画の「到達目標」のすべてを網羅した問題を定期考査とレポート等で出題し、目標の達成度を評価する。各「到達目標」の重みは概ね均等する。合計点の60%の得点で、目標の達成を確認できるレベルの試験を課す。</p> <p><学業成績の評価方法および評価基準> 前期末の試験結果から60%、課題提出、小テスト、授業中の黒板での問題演習への取り組み等の結果を40%として評価する。ただし、前期末については再試験を行わない。</p> <p><単位修得要件> 与えられた演習課題を提出し、学業成績で60点以上を修得すること。</p> <p><あらかじめ要求される基礎知識の範囲> 中学校卒業程度の国語能力、特に「古文・漢文」についての基礎学力を身につけていることを前提とする。</p> <p><レポート等> 理解を深めるため、すべての教材に演習課題を与える。また、古典文法小テスト等を課す。</p> <p><備考>授業中は学習に集中し、内容に対して積極的に取り組むこと。また、ノート、課題は期限厳守して提出すること。なお、本教材は後に学習する国語Ⅱ、日本文学、言語表現Ⅰ・Ⅱ、文学概論Ⅰ・Ⅱの基礎になる科目である。</p>				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス 古文入門および学習方法について(「古文の言葉と仮名遣い」)	1. 「古典」の学習の目当ての意義を理解し、学習する意義を確認する。	
		2週	古文入門および学習方法について(「現代語訳のために」)	2. 音読を通して現代文との違いに注意しながら、古文を読むための基礎(歴史的仮名遣い等)を理解している。	
		3週	「児のそら寝」①(「宇治拾遺物語」)	3. 登場人物の心理に注目して、古文の世界を理解し、古文を読むための基礎(品詞等)を理解している。	
		4週	「児のそら寝」②(「宇治拾遺物語」)	上記2. 3に同じ	
		5週	古文の文法(動詞・形容詞・形容動詞)	4. 古典文法の基礎学習(動詞・形容詞・形容動詞)の学習内容を理解している。	
		6週	随筆「つれづれなるままに」(「徒然草」)	5. 三大随筆のそれぞれの文学的価値を理解している。 6. 古文を読むための基礎(係り結び等)を理解し、前期中間までの学習内容を理解している。	
		7週	随筆「今日はそのことをなさんと思へど」①(「徒然草」)	7. 随筆を通して兼好法師の人生観および「徒然草」の世界観を理解し、古典文法の基礎学習の学習内容を理解している。	
		8週	随筆「今日はそのことをなさんと思へど」②(「徒然草」)	上記7に同じ	
	2ndQ	9週	漢文入門 訓読・返り点	8. 漢文の特色を学んで、漢文訓読の基礎(訓点・書き下し文等)を理解している。	
		10週	漢文入門 再読文字・助字	9. 漢文の特色を学び、漢文訓読の基礎(再読文字等)を理解している。	

		11週	故事 虎借威①（「戦国策」） 否定・疑問の句法	10. 故事成語の学習を通して、戦国時代の諸国と遊説家の言行を理解し、漢文の句法（否定・疑問）を理解している。
		12週	故事 虎借威②（「戦国策」） 反語・感嘆の句法	11. 故事成語の学習を通して、文学史的価値を理解し、漢文の句法（反語・感嘆）を理解している。
		13週	歌物語 「芥川」①（「伊勢物語」）	12. 音読を通して現代文との違いに注意しながら、和歌の修辞法の学習を通して、歌物語の特徴を理解する。
		14週	歌物語 「芥川」②（「伊勢物語」） 和歌の修辞①	13. 歌物語の展開をおさえながら、古典の内容を理解している。
		15週	歌物語 「芥川」③（「伊勢物語」） 前期末までの復習 授業のまとめ（アンケート）	14. 登場人物の心理に注目して、古文の世界を理解し、文法（付属語）の応用学習内容を理解している。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3	
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べるができる。	3	
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べるができる。	3	
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3	
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	
相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3					
新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3					

評価割合

	試験	課題・提出物	小テスト・発表	合計
総合評価割合	60	20	20	100
配点	60	20	20	100